

稲垣次郎、細野よしひこ

2人が中心のカルテットでジャズに酔う

10月3日(土)午後6時~

白井音楽倶楽部がライブ

白井音楽倶楽部(松川輝雄会長)は10月3日(土)、サクソフォーズの稲垣次郎とジャズギタリストの細野よしひこを中心としたカルテットで第16回ライブを行う。

他の出演者は、中山雅世(キーボード)、石井千雅(ドラムス)、井頭久男(ベース)、紅一点の中山は、前回のライブにも出演し好評を博した。

△細野よしひこ1953年生まれ。20歳でプロデビューした後、ジョージ川口、世良譲、前田憲男らと競演を重ねる。1989年にはアンリ菅野&メロトーンのリリダーとして、トロンボーントリオ、ジャズ・フュージョン・パフォーマンス、アルフォンソ・ジョンソン、サラナ・ジョーンズなど海外ミュージシャンとの競演も多い。「細野よしひこジャズギタースクール」の主宰者でもある。

【会場】ワークス・カフェ(北総線「西白井」駅南口ロータリーから無料送迎車あり。希望者は午後5時半に集合)【開演】午後6時(特別料金)3千500円(ワンドリンクとオーガニック素材の軽食付き。ドリンクは、オーガニックのビール、ワイン、コーヒ、紅茶、りんごジュース。追加の飲食代は自己負担)【予約・問合先】0900・8460・7301(松川) / 0900・1800・7002(幸正)

第30回白井街かど落語会

白井落語講談会は9月6日(日)、第30回「白井街かど落語会」を開催(協力/エヌ・アイ・エス・ハッピー倶楽部)する。出演は、金原亭小駒

市婦人会主催でマツケン主演の映画を上映

「岡山孤児院」を創設した石井十次の波乱万丈の生涯を描いた映画「石井のおとうちゃんありがとう」が9月12日(日)、白井市文化会館大ホールで上映される。主催は白井市婦人会、後援は白井市と白井市教育委員会。平成17年度児童福祉文化賞受賞作で、石井を演じた松平健は第14回日本

モンゴル絵画展示と講演会

白井国際交流協会が「モンゴルの画家によるお話し会と展覧会」(後援・白井市)を行う。画家は、中国・内モンゴル自治区出身のエラドンバルトラさん。草原の国モンゴルの自然や、遊牧民の生活・歴史・文化などを絵を通して紹介する。講演は日本語で行う。

「公正じゅんじ」の提案箱

8月3日から7日まで4泊5日の「市町村議会議員政策講座」に行ってきました。場所は、千葉市美浜区にある市町村職員中央研修所。この研修所は本来、市町村職員へ研修を専門に行っているが、年に数回は議員を対象にした講座が開かれるのです。



「地方分権」に向け地方議員は必死だ

意義な研修でした。さて講義項目は、「分権時代における地方議会への期待」「地方行政・財政の現状と課題」展望「分権改革と地方財政の展望」「公会計制度改革の概要」「自治体の戦略的経営改革」など。他にも平成19年に全国市議会

「提案箱」へのご意見・ご質問はメールで shiroi-t@nifty.com

を成し遂げたいという意気軒昂な議員に触れて、更なる精進をしなければという感慨に至りました。ちなみに白井市議会からは私の他に福井みち子議員が参加、お互いに「頑張ろうね」とエールを交換しました。9月1日から議会が開

博人館



五十嵐理良さん
本名・よし江
(白井市茶華道協会顧問)

田んぼの疲れも生け花で解消した

「古流松應家元参与(師範)」の肩書を持つ五十嵐さんは、平成元年から老人福祉センター(清戸)に出向き、中高年の女性が集まるサークル「生け花 なでしこ会」で教えている。生け花教室で教えるのは月2回ほどだが、老人福祉センターには週に2、3回顔をだす。「カラオケを聴いたり、みんなとお話しするのが楽しみなんです」五十嵐さんは大正15年3月、茨城県北相馬郡文村(現・利根町)で生まれた。父親は、農業の傍ら東京の役場でも働いていたが、「実の母は、私が尋常小学校5年のときに病死した。その後、後妻をもらったけど、それも腹違いの弟を1人産んでから病気で亡くなりましたよ。3人目をもらったのは終戦の年かな」が、1年も経たないうちに家を出て行ったという。五十嵐さんは、畑仕事の合間に父親と十五歳年下の弟の食事をつくった。そして最終日は午後4時の昭和25年(1950年)、白井の清戸に住む男性に嫁ぐ。24歳のときだった。

「主人の母親と私が従姉妹なんです。従姉妹の母親、つまり叔母が盆や正月になると、よく文村にやってきました。ある日、叔母は五十嵐さんにこう言った。「よし江、お前の母ちゃん(実母)に、『よし江、頼むよ』と言われたんだ。うちに来てくれんか。うちの光治はわよ、ヤクザだからよ、来てくれればいいと思うけどよ」ヤクザといっても、暴力団ではない。なんと当時の白井は「おとなしい人」「優しい人」という意味で使われていたらしい。実際、結婚相手の光治さんは、やさしい人だった。結婚して長女と長男が生まれた。光治さんが38歳のときに異変が起る。「変形性腰椎炎」といったかな、腰を痛めて身体障害者になってしまった。ま、田んぼの仕事をやりにすぎたんでしょね。それ以上悪くなられたら困るのだから、私もできるだけ細仕事をやった。男みたくに耕運機も使えないし、車も運転しな。主人が免許もとれない体だから、私が50年前に運転免許を取ったんですよ」

80歳を過ぎた今でも毎日運動しているという。なんとともたふな女性である。で、生け花をはじめたきっかけは?

「娘のころは貧乏だったけど、隣のうちとそこの隣のうちは、文村でも、二を争う財産家だね、そのお嬢さんたちがお花を習ったの。ほんでその隣のうちに私が遊びに行くと、床の間に生け花が飾ってあるのね」生け花に興味を抱いたが、すぐに戦争が始まったので、生け花どころではなかった。けれど、白井に来てから、どうしても生け花をやりたいと思った。田んぼで働き、身体障害者の主人をかかえながら、地下鉄サリン事件の前月まで、巣鴨の家元のところを毎月通って指導を受けましたよ」

五十嵐さんにとって、平成7年(1995)3月に発生した地下鉄サリン事件は、ショックな出来事だった。「最近は何かが増えた。マッカードで日本が変わったわね」。敗戦直後の日本に君臨したマッカード將軍のことである。「私、女学校も出てないけど、マッカードが来てから学校の教科書から修身、道徳や作法もなくなった。だから今の子供たちが常識がないのは当たり前だ。孫には説教はしない。嫌われるから、ウフッ」

ウイットに富む話しぶり。いつまでもカワイイ女性だ。夫の光治さんは13年前に他界した。長女夫婦と孫の4人暮らし。